

笑いは世界を救う

岐阜市立三輪中学校 3年

土田 侑良

突然ですが、今から落語を披露したいと思います。面白くなくても、笑ってくださいね。

「ねえねえ見てみて〜。このスカート、3割引きだったのよ〜。」

「何言ってるのよ!このセーター、5割引きだったのよ!」

「5割引が何よ!私のこの財布なんて、万引きなのよ。」

今、みなさんは笑ってくれましたね。では、笑った時、どんな気持ちになりましたか。きっと、楽しい、幸せな気持ちになった人が多いはずです。このように、楽しいことや嬉しいことがあった時、人は笑います。でも、逆を言えば、嫌なことがあった時、人はネガティブな気持ちになります。そして、この気持ちが時に人に喧嘩や争いを起こさせたりします。では、このネガティブな気持ちをハッピーな気持ちに変えることはできないのでしょうか。僕は「笑い」こそが、人を幸せにする一番の近道だと思っています。

僕は中学1年生の時、毎日のようにイライラして、ちょっとしたことですぐにキレて物に当たったり、母に暴言を吐いたりする時期がありました。反抗期というやつです。当時は自分も苦しかったし、家族も辛い思いをしていました。当然家の中に笑いはなく、ネガティブな空気がいっぱいでした。その時の僕を救ってくれたのが落語でした。

僕は、小学4年生の時に小学校の「落語クラブ」に所属したのをきっかけに、今日まで、佐和山佐吉という高座名で落語を披露してきました。丁度その頃、策伝大賞という大きな落語の大会のアトラクションに出演することが決まっていた。しかし、僕は中々やる気が出ませんでした。それでも、どうせ出るのなら、最高の落語を披露したいという思いから、気持ちを切り替えることができました。そして、全力で練習に励んで迎えた本番の日。僕の演目は「平林」。「平林」とは、手紙の宛先の名前が読めない主人公の定吉が色々な人に読み方を聞いて回る話です。会場は大きな笑いに包まれました。僕の落語を聴いた人みんなが幸せそうな顔をしていて、それを見ているうちに、鬱々とした気持ちが晴れていくのを感じました。沢山の方から「佐吉くん良かったよ」「今日ここに来て元気をもらったよ」という声をかけてもらい、僕はもちろん、両親も祖父母もとても喜んでいました。それを見た僕は、落語を選んでよかったと心から思うことができました。そしてこのことをきっかけに、僕は家族に対して素直になることができ、そこから家族の雰囲気が良くなりました。

僕は落語を通して、「笑い」は自分だけではなく他者をも幸せにする力があることに気づきました。だから、笑いの持つ力で世界を変えることはできないかと真剣に考えました。

僕が策伝大賞に出場した時、審査員をされていた立川志の輔師匠に、お褒めの言葉をいただきました。ちょうどその頃、志の輔師匠が、東日本大震災の被災地や、能登半島地震で被災した富山県氷見市で、落語を披露する活動を行っていることを知りました。志の輔師匠が、深く傷ついた被災者の方々の心を「笑い」で癒している。志の輔師匠の落語を聞いて、「笑っていいんだ」と笑顔を取り戻した人が大勢いるそうです。

今、世界の様々なところで災害や争いが起こり、たくさんの方が悲しい思いをしています。こんな世界を変えてみたいと僕は思います。でも、僕はまだ中学生です。では、今の僕に出来ることとは何か。それは、僕の周りにいるみんなを少しでも笑顔にすることだと思い、今日まで落語を続けてきました。志の輔師匠が届けた笑いで被災者の方々が幸せになったように、僕が届けた笑いを受け取った誰かが幸せになる。そしてその人がまた誰かを幸せにする。その輪が広がり、「笑い」に溢れた社会を創ることで、災害が起きても笑顔で復興に向かって歩き出すことができたり、紛争や戦争がなくなったりするかもしれません。

最後に、この会場にいる皆さんを「笑い」で幸せにして、この話を終わろうと思います。

「この下手くそな作文を書いたのは誰だ!」

「先生、僕のお父さんのことを悪く言うのはやめてください!」

お後がよろしいようで。